

V. 意識・行動分析

V. 意識・行動分析

1. 意識・行動分析にあたって

意識について設問した問1および行動について設問した問2を用いて、得られた結果を点数化することで、意識と行動の差の分析を行う。なお、前回調査結果との比較にあたっては、同じ基準での指標とするため今回調査の算出方法に合わせて算出し直した。そのため、前回調査報告書「I. 3. 意識・行動分析」の調査結果とは数値は一致しない。

2. 点数化の方法

(1) 各設問ごとに次のとおり点数化する。

問1 (1)～(4)

「とてもそう思う」…………… 4点
「少しそう思う」…………… 3点
「あまりそうは思わない」…………… 2点
「まったくそうは思わない」…………… 1点

問2 (1)～(4)

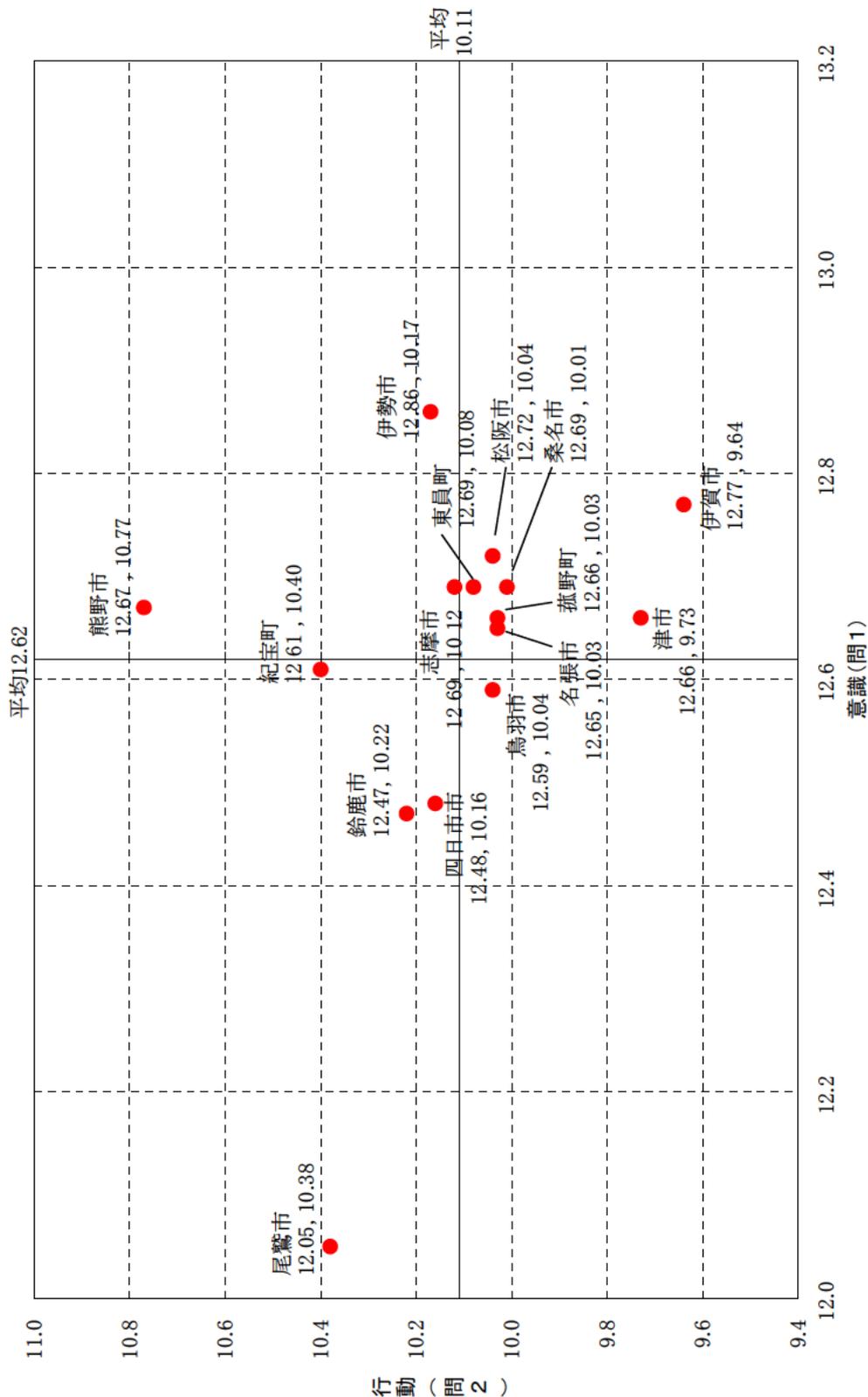
「よく当てはまる」…………… 1点
「少し当てはまる」…………… 2点
「あまり当てはまらない」…………… 3点
「まったく当てはまらない」…………… 4点

(2) 設問（問1および問2）ごとに点数を合計する。ただし、設問の中で「無回答、無効回答」を含む回答をした回答者は母数から除くものとした。

3. 市町別の意識と行動の相関関係

市町別に意識（問1）と行動（問2）の点数の相関関係をみると下図のようになる。

全体の平均値で区分してみると、意識・行動ともに高いエリア（右上）には伊勢市、熊野市、志摩市が入っている。行動は高いものの意識が低いエリア（左上）には四日市市、鈴鹿市、尾鷲市、紀宝町が該当し、意識は高いものの行動が低いエリア（右下）には津市、松阪市、桑名市、伊賀市、名張市、東員町、菟野町が該当する。鳥羽市は意識・行動ともに低いエリア（左下）となっている。



4. 意識と行動の相関関係の前回調査との比較

前回調査との比較の可能な 11 市町について意識と行動の相関関係の比較を行った。なお、今回調査結果の数値に関しては、市町村合併前の旧市町単位での値である。

前回調査（赤字）から意識・行動ともに上昇（黄色矢印）しているのは四日市市、熊野市、菰野町の 3 市町であった。意識は上がったものの行動が下がった（ピンク矢印）市町は名張市、鳥羽市の 2 市、行動は上がったものの意識が下がった（緑色矢印）市町は鈴鹿市、伊勢市、松阪市、桑名市、尾鷲市の 5 市であった。意識・行動ともに下降（青色矢印）しているのは津市のみであった。

